



ご挨拶

同窓会 会長

山崎 好美



全国各地で活躍されている
会員の皆様、いかがお過ごし
でしょうか。

2019年12月中国で1例
目の感染者が確認された新型
コロナウイルスの感染拡大が
日本のみならず世界中で拡が
り、日々の生活にも支障をき
たしている現状です。今年に
入って自治体や職域などを通
じてワクチン接種が始まった
とは言え、まだまだ安心でき
るような状況下ではありませ
ん。

『緊急事態宣言の発令・ま
ん延防止等重点措置』の繰り
返しで、同窓会活動も殆どと
いつていいほど出来ていま
せん。各支部活動においても同
様です。ワクチン接種が希望
する皆様に行き渡るように切
願います。

さて、昨年の定期総会にはコ
ロナ禍をふまえて対面式での
開催を役員一同で模索しまし
たが、会員の皆様の安心・安
全を確保できない状況のた
め、やむを得ず書面審議とさ
せていただきました。

各議案の結果については、
同窓会ホームページに掲載し
た通りであります。私自身も
皆様方にご承認いただき、引
き続き会長職の重責を担う事
となりました。この厳しい状
況下ではあります、会員の
皆様方や役員諸氏のお力を借
りたいと思っております。

第50号

発行
横浜商科大学
同窓会
TEL・FAX 045-583-9031
<http://www.shodai-ob.com/index.html>
印刷
（有）サン・プリンティング
Tel 03-3750-6633

一方、大学に目を向けてみ
ますと、コロナ禍の中で学生
はキャンパス内に入ることが
かなわず、オンラインでの授
業となりました。3月には学
位記授与式がオンラインにて
開催されましたが、1年間一
度もキャンパスに入る事な
く、262名の学生が卒業されま
した。内訳は、商学科143名、
観光マネジメント学科65名、
貿易・観光学科1名、経営情
報学科53名です。卒業生に
とっては毎年見慣れた各学科
の代表者が、学長より学位記
を授与される風景は一緒です
が、オンラインということ
周りには関係者だけでした。

今日、この日を迎えるまで皆
さん方を支えてくれた方々に
感謝しつつ、是非とも本学で
培った知識や経験をもとに、
夢に向かって精進して頂きた
いと思います。

4年生を送り出した翌月の

4月には、県民ホールにて入
学式が挙行されました。当日
は、新入生362名、編入生3名
と大学関係者が集まってい
ました。

新入生の内訳は、商学科201
名、観光マネジメント学科54
名、経営情報学科107名（ス
ポーツマネジメントコース66
名、情報マネジメントコース
41名）、編入生はいずれも商
学科です。

入学式では、在学生による
歓迎メッセージ
ジビデオの映
像が放映され
ました。感染
防止の観点か
ら保護者の参
加はかないま
せんでした
が、心あたた
まる入学式と
なりました。

在学生に対
するワクチン
接種は、同じ
鶴見区内に在
ります鶴見大
学と協力して
接種を進めて



商大はここから世界へ

います。
ワクチン接種が希望する学
生に行き渡れば、感染リス
クが減少し、現在行われている
オンライン授業から対面式授
業に切り替わり、キャンパス
も以前のような活気を取り戻
せると思います。
コロナ禍の中ではあります
が、会員の皆様方や大学関係
者の皆様方、在学生の皆様方
のご健康とご多幸をお祈り
いたします。

令和二年度 卒業式

2021年3月13日(土)
鶴見キャンパスにて、オンライン卒業式が挙行されました。

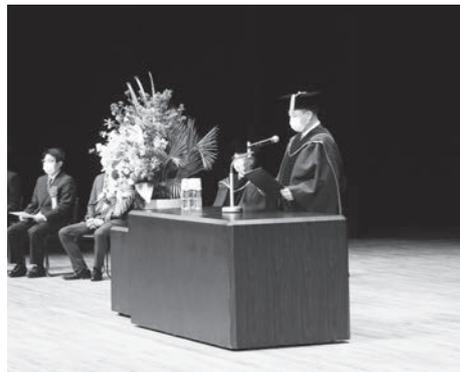


それぞれの先生より思い出の教室で卒業証書を手渡されました。
しっかりと胸に新しい世界へと旅立ちました。



令和三年度 入学式／特待生・同窓会奨学生認定式

2021年4月1日(木)
県民ホールにて、入学式が挙
行されました。



元気いっぱい
夢と希望の一年生



入学式後、特待生・同窓会
奨学生の認定式が行われた。

新会員紹介

大学生生活の思い出

商学部 経営情報学科卒業

川田 祐輔

私の大学生生活は『新しい経験』と『新たな目標』ができた4年間でした。

私がこの大学に入学した理由は、野球を続けるためでした。ですが、入学して早々怪我が悪化してしまい、小学校から続けてきた野球を辞めるという大きな決断をしました。そこから、『様々なことを経験しよう』と目標を決め、人前での発表が苦手だった自分を変えたいと思い、積極的に授業で発表を行ったり、グループワークでチームリーダーに取り組むなどして積極的に発言した事で人前での恐怖心も薄れていきました。また、そういった活動を大学側から評価して頂き、大学3年時の入学式で発表を行う役を選んでいただけました。今でも大勢の新入生やその父母がいる前で発表したことは、自分に自信を与えてくれた経験となっています。大学生生活以外では、初めてア

ルバイトを経験しお金を稼ぐ大変さを学ばせて頂いたり、シェアハウスに移住し様々な国籍や年齢の方々と生活を共にし、多種多様な考え方に触れ刺激をもらうことが出来ました。また、様々な国に友達ができ楽しい生活を送らせて頂きました。

そんな充実した4年間で最も印象に残っている事は、大学の『SA活動』と『ゼミ活動』です。『SA活動』では、大学2年時からSAとなり卒業するまで活動をさせて頂きました。その活動を通して、教える側の難しさや人間関係の構築の難しさを体験することが出来ました。また、大学3年時からSAコアスタッフとなり、SAをマネジメントする立場も経験させて頂き、教員と授業についての打ち合わせを行ったり、イベント等を企画して実行したり、普通では経験することが出来ない体験をさせて頂きました。このとても貴重な体験は今の社会人生活でも活かしています。

『ゼミ活動』では、経済政策のゼミを専攻し、経済情勢や社会の仕組みについて学びました。身近なことでもどんな仕組みになっているのかわからないことが多いと気づくきっかけと

なり、そこから気になったら調べ癖をつけるようにし、わからない事をわからないままにしないように心掛けました。社会人になってもその経験は活かしていると感じていきます。また、ゼミの時間以外にサブゼミを行い、より社会の仕組みを学べる環境を整えて頂いた伊藤先生にはとても感謝しております。このゼミ活動を通して、将来自分がどうなっていきたいのか考えるきっかけを頂き、地方を農業から活性化させていきたいという目標を持つことが出来ました。今はその目標の実現に向けて邁進しています。

最後に、コロナ禍で思うように大学生生活を満喫できず不満も多いと思います。実際に私も4年時はリモート授業だけで友達と楽しいキャンパスライフは送れませんでした。ですが、コロナ禍になったからこそ出来た体験や出会えた方々もいらつしやいました。そのため、このコロナを言い訳にするのではなく、コロナがあつたからこそ素晴らしい体験や出会いあつたとコロナが終わつてから思える様子を充実させてください。

商学部 観光マネジメント学科卒業

小澤 祐馬

横浜商科大学には、ホテルマンを夢に見て入学しましたが、卒業後は葬儀社の営業マンとして社会人生活をスタートしました。振り返れば学生生活で多くのことを学び、体験してきました。その思い出を三つほど振り返りたいと思います。

一つ目に思い出すことはやはりラグビー部での活動です。私にとって学生生活のすべてでした。ラグビーは大学に入ってから始めましたが、初めて試合を見学に行った日のことをよく覚えています。憧れたホテルでのアルバイトが決まり、部活動をするという選択は私にはありませんでしたが、当時のキャプテンの熱意に押されて体験練習会に参加、気が付けば四月末日には入部をしていました。ラグビー部は他大学との交流が多く、合同チームとして合宿や試合を行うなど、他の団体にはない楽しさや魅力があり、練習を重ねていくなかで、素人だった私が三年生から二年間キャプテンという大役を務めさせていただけました。

また、三年生の時に、ラグビー

マンの憧れである秩父宮ラグビー場で関東協会の選抜チームの一員としてプレーすることができたことは、かけがえのない経験となりました。

二つ目に思い出すことは体育部連合会での活動です。三年生からの二年間、会長職を務めさせて戴きました。活動では「所属団体を盛り上げること」はもちろん、「学生自治会・文化部連合会との結束」・「大学祭への貢献」に力を注ぎました。体育部連合会役員を務めたことで多くの人と関わりができ、支え、支えられて活動ができることに有り難さを感じました。

三つ目に思い出すことはアルバイトでの経験です。四年間外資系ホテルの客室係としてアルバイトをさせて頂いていただきました。接客業を四年間経験したことで、対面のサービスに就く職活動を行ったことは、現在勤務している葬儀社を選んだきっかけにもなりました。

そして、今一番に思うことは人とのご縁についてです。葬儀という職業柄、一期一会とも言える機会が多々あります。来るべくして来た時なのか、偶然なのか考え方は人それぞれです。商大では多くの人に支えていた

できました。これからは社会人として支える側の人になるべく頑張っていきます。

商学部 観光マネジメント学科卒業

中山 美紀

私が大学生活で印象に残っていること3つを書かせていただきます。1つ目はサークル活動です。私はホスピタリティ研究部の部長を2年間務めさせていただきました。一時は部員が90人近くいたこともあり、人をまとめることの難しさを学びました。一方で、多くの人と交流することができました。サークルでは気の合う友人や、卒業後も連絡を取り合える先輩に出会うことができました。ホスピタリティ研究部は、観光を学ぶ学生が集う日本学生観光連盟に加盟しています。連盟での思い出に残っている活動は、福島県に一泊二日で行った「こらんしょ！プロジェクト」です。ハワイアンズに宿泊し、東日本大震災による津波で魚などが流されてしまった「アクアマリンふくしま」見学や遊覧船への乗船など様々な体験ができました。他大学の学生との交流ができ活動に参加して良かったと思います。

2つ目はゼミナールです。私は竹田ゼミに所属していました。ゼミでは主に人々の移動についての研究をしてきました。はじめは人々の移動に関する文献講読から始まり、移動や社会の課題についての調査や企業との情報交換など様々な研究を行いました。卒業論文では「フードイベントとフードツーリズム」の関係について書きました。ゼミでの思い出といえば、福井県美浜町への視察研修が挙げられます。研修では、域内の移動手段や観光施設を調査しました。美浜町での回遊行動に対しての今後の課題や解決策を示し、実際にレポートを美浜町へ提出し、よりリアルな研修を行うことができました。ゼミでは突然課題が出されたり、厳しいことを言われたり大変なこともありましたが、今となつては良い思い出です。

3つめは大学のオープンキャンパススタッフです。オープンキャンパススタッフは1年生からやらせていただきましたが、3年生のころ、新たなコンテンツである「学生による模擬授業」に携わらせていただきました。先輩が授業を進行し、私は高校生が参加しやすいようお手伝い

させていただきました。そして4年生になり、自分自身が進行担当になりました。惜しくも対面での授業は叶わずオンラインでの動画配信になりましたが、良い経験になりました。オープンキャンパススタッフとして、高校生の大学選びのお手伝いできたことが嬉しいです。そして私は今、社会人として働いています。横浜商科大学の卒業生として恥じぬよう社会の一員として頑張っていきたいと思います。大学生生活で私と関わってくれた全ての人に感謝します。

商学部 商学科卒業

佐々木 拓人

卒業して半年が経ちましたが、特別変わったことは正直ございません(笑)。今感じることが、在学中の4年間はとても貴重な時間だったことです。新しい分野の学習を行いつつも好きなことに多くの時間を割ける環境があつてとても充実してました。部活動、SA、ゼミナールこれらの充実した活動を支えてくださった学校関係者の皆様にご心より感謝申し上げます。これらの活動では楽しみ、協力し合

仲間に出会えて私の人生の宝物となりました。ここからはこれまでの学生生活を振り返ってみたいと思います。まず、1年次の私はアルバイトとバンド活動に明け暮れていた時期でした。将来のことなど全く考えずただ好きなことに打ち込み時間が過ぎていきました。それはそれで今考えると充実していたと思います。SNSが発達し、入学する前から知り合っている同期の人が多く、多くの友人ができてとても恵まれていたと感じています。この時期に出会った友人がいなかったら2年次からのSA、ゼミナールの活動での充実感はなかったと思います。また、SA、ゼミナールの活動で私は「社会」というものを意識し始めました。2年次からの活動で、SAとゼミナールでの活動が始まり、徐々に就活を意識していきました。主に2つの活動で意識したことは組織の為に動いたことです。SAでは、グループワークに上手く参加できない学生の補助、ゼミナールでは、イベントに向けた打ち合わせで仲間をリードし主体的に動いたこと。これらが今凄く役立っていると感じております。

社会人になつてから、まだ大学2、3年次を上回る刺激的なことはございませんが人との繋がり・出会いを大切にしていきたいと思います。コロナはいつ終息するか分かりませんが、僕らの時よりも学生皆さんの交流の場というのは少ないので、貴重なこの今という時間を大切にお過ごし頂ければと思います。私も今という時間を大切に、学生時代に出会った仲間と再会したいです。

最後になりますが、在学生の皆さん、これからの横浜商科大学を宜しく願ひ致します！



大学だより

学術・地域連携課より

横浜商科大学では、本学の教育職員が行う研究活動や地域貢献活動を支援する、各種助成制度を設けております。

2021年度も多くの教育職員がこれらの助成制度をうけ、研究活動及び協働事業に励んでおります。

1. 横浜商科大学研究助成金

本学の教育職員が、単独又は2名以上からなるグループで推進する単年度の研究活動について助成するものです。助成金額は、1件につき100万円を上限としています。

2021年度採択者

	研究代表者(共同研究者)	テーマ
1	東本裕子	Flat Stanley Projectを活用した英語による自己表現と異文化交流
2	こちやすお 東風安生	市民性を養う教育のための高大連携プロジェクト（実践編）
3	洪瀬雅彦	広告情報の開示による消費者行動への影響に関する研究
4	榎本真俊	実空間とサイバー空間のインタラクティブな検証環境構築のためのフレームワークの開発
5	総田はるみ(イレーナ・スルダノヴィッチ)	ウィズコロナ期における国際共修—外国語を武器とするキャリア計画指導—
6	大島研介(小原健一郎)	Contingency Addition手続きを用いた視覚的な点字学習プログラムの開発
7	田中聖華(総田はるみ)	グローバル化社会における留学生のキャリア教育プログラムの開発

2. 横浜商科大学出版助成金

本学の教育職員が研究成果を刊行するために必要な経費の一部を助成するものです。助成金額は、1件につき100万円を上限としています。

2021年度採択者

執筆者	タイトル	出版者
こちやすお 東風安生	子どもたちのために親と教師ができること—教育の現場から、いま伝えたいメッセージ—	22世紀アート

3. 横浜商科大学地域貢献協働事業助成制度

本学の教育職員が行う地域貢献協働事業を奨励及び支援する制度です。「(A) 個人又は共同」は一事業につき、個人プロジェクト50万円、共同プロジェクト100万円を上限とし、「(B) 授業一体型」「(C) イベント型」については予算編成と一体的に審査し、当該事業に対する助成額を決定しています。

2021年度採択者

	事業代表者	協働事業者	プロジェクト名
1	佐々徹	大口通商店街協同組	本学と大口通商店街協同組合との包括連携協定に基づく協働プロジェクト（A個人型）
2	柳田義継	横浜市鶴見区役所区政推進課	市・区民への行政・地域情報発信プロジェクト（A個人型）
3	こちやすお 東風安生	横浜市鶴見区福祉保健センターこども家庭支援課	子育て支援・土曜日プロジェクト（A個人型）
4	佐々徹	横浜中華街「街づくり」団体連合協議会	中華街まちなかキャンパス「横浜中華街の世界」(B授業一体型)
5	佐々徹	野毛地区街づくり会、野毛地区振興事業協同組合、横浜にぎわい座	野毛まちなかキャンパス「横浜・野毛の商いと文化」(B授業一体型)
6	佐々徹	横浜市鶴見区役所	鶴見コンシェルジュ養成講座（B授業一体型）

元学長村田稔雄先生を偲んで

名誉教授 坪川 弘

本年三月十二日、本学第三代学長村田稔雄先生が九七歳でご逝去されました。先生は学会では自由主義経済の巨匠であるルートヴィヒ・フォン・ミーゼスの愛弟子として彼の思想・研究を日本で知らしめることに努めてこられました。他方、本学では三十年の在籍期間中のほぼ半分の間、学長・学部長・図書館長・教務部長の要職を歴任されました。

先生の担当科目はご専門の「経済学原論」ばかりでなく「マーケティング論」も担当されていました。先生は「マーケティング論」ではバブル経済前の日米の不動産事情に関心を持っておられ、現在の日本を代表する不動産会社の幹部を連れてアメリカの多くの都市を周られました。どこかでバブル経済の到来を予見していたのかもしれませんが、また専門分野以外では、先

生は多彩な趣味を持たれていました。図書館の閲覧室に長く飾られていた英国戦艦「ヴァーノン提督号」の巨大な模型は先生がアメリカから取り寄せたキットを組み立て彩色したものでした。なお先生が大学に寄贈されたものに「手回しオルガン」があります。これは先生がヨーロッパの学会に出席した折、街角で奏でられていた「手回しオルガン」を自宅に購入し、退職時に学生にも聞かせたいと新たに求められたものです。

最後に先生の退職後の過ごし方に触れますと、十年ほど前にご長男が移住されていた長野県原村に奥様と移られました。原村では年に二・二度ミーゼスの読書会や講演を行われていたようです。九十歳を過ぎてご自分の専門分野の知識を広めることに努められていました。先生が講演を行うコッスを私に教えていただいたことを最後に記しておきます。講演時間は通常三十分・一時間と決められており、その時間内に話を終わらせなければなりません。そこで先

生は私に講演の練習は電車の特定の区間を区切って声を出して話すことを勧められました。「ただし、この練習は地下鉄内に限ります。」と先生はにこりとされたのでした。



○同窓会事務局からのお願い○

1. 物故会員について

物故会員についてご存じの方は、氏名・卒業年度について同窓会事務局までご連絡ください。

* 昨年住所変更及び物故のメモがある返信ハガキが届いたのですが、ご署名・ご住所の記入がなくどなたのものか不明となっています。その為、今回会報誌が送付されることとしますので、よろしくお願い致します。ご一報いただければ幸いです。

2. 住所変更等について

住所変更等がある会員については、氏名・卒業年度と共に同窓会事務局までご連絡ください。

なお、同窓会事務局で把握していない物故会員、住所変更等のある会員については、従前どおりの住所宛に同窓会会報及び総会資料等を送付しますのでご了承ください。

本「議案」資料を熟読していただき、別紙「書面表決書」又は「回答フォーム」より賛否の意思を表示して下さい。「書面表決書」の署名は、自署（自筆）をお願いします。押印は不要です。

〔回答フォーム〕

<https://forms.gle/AWsifEJfC86k BumG8>

〔回答QRコード〕



～同窓会事務局～

月・火・木・金 午前10時～午後4時30分

〒230-8577

横浜市鶴見区東寺尾4-11-1

TEL/FAX 045-583-9031 (直通)

E-mail dousou@shodai.ac.jp

URL <http://www.shodai-ob.com>

2019年度 定期総会「書面審議」の結果について

横浜商科大学同窓会
会長 山崎好美

先般行われた「2019年度同窓会定期総会『書面審議』」の結果について、下記のとおりご報告いたします。

記

- 第1号議案 2019年度 事業報告 2019年10月1日～2020年9月30日
 第2号議案 2019年度 決算報告・監査報告
 第3号議案 2020年度 事業計画(案) 2020年10月1日～2021年9月30日
 第4号議案 2020年度 予算(案)
 第5号議案 会長の選出について
 第6号議案 会計監査の選出について

議案	賛	否	回答無	合計
第1号議案	580	1	15	596
第2号議案	579	2	15	596
第3号議案	580	1	15	596
第4号議案	580	1	15	596
第5号議案	580	2	14	596
第6号議案	581	1	14	596

※議案発送総数 13,117

※返信総数 596

以上のことから議案のすべてが可決されました。

なお、第5号議案(会長の選出)は、山崎好美(昭和48年卒)(2020年10月1日～2022年9月30日)が会長に選出されました。また、第6号議案(会計監査の選出)は、長田昌明(昭和49年卒)(2020年10月1日～2022年9月30日)、穂坂治宏(昭和62年卒)(2020年10月1日～2022年9月30日)が会計監査に選出されました。

今回の総会については、いわゆるコロナ感染拡大防止のため、致し方なく「書面審議」とさせていただきますが、多くの会員の方々にご協力をいただきましたことに心から御礼申し上げるとともに深謝申し上げます。

第7回ホームカミングデー

中止

第54回 飯山祭はオンラインで開催!

10月30日、31日に飯山祭の伝統をつなぐため
学生・教職員が一丸となって開催されました。

編集後記
 会報50号という記念すべき会報でしたが、2年越しのコロナ禍の為、さびしいものになってしまいました。
 わが母校の理事長はじめ執行部が、このコロナ禍で学生の為にどこよりも早くより適切な諸対応を実行されました事に感謝があります。そんな母校と共に同窓会も何か出来ることはないでしょうか。会員の皆さまのお知恵を貸して下さい。Withコロナ。コロナに負けないで!!
 会報50号発行に、皆さまご協力ありがとうございました。この会報は10年間HPに掲載されますことをご承知願います。

— 紀 —

